

富山・弓庄城跡

ゆみのしょう

- 1 所在地 富山県中新川郡上市町館
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)五月～十二月、一九八四年四月～九月

～九月

- 3 発掘機関 上市町教育委員会
- 4 調査担当者 高慶 孝
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～室町時代末(戦国期)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(魚津)

弓庄城跡は、上市町の中心部から南へ約2km、町の南東部を流れる白岩川の標高五〇m前後の河岸段丘上に位置する。一九八一年から一九八五年にかけて当遺跡周辺において、団体営ほ場整備並びに県営ほ場整備事業が計画されたため、上市町教育委員会が事前発掘調査を実施した。この付近は、以前より



中世豪族の土肥氏の居城があったことが知られており、中世末の遺物の散布が認められていた。このため、当該時期の遺構の存在が予想されていたが、調査の結果、中世末の城跡の遺構のほか、それと重複して、中世の荘園に係わる遺構も数多く検出された。城跡に係わる遺構としては、掘立柱建物・井戸跡・土壇・溝があり、一六世紀頃に比定される土師質土器・陶磁器・石臼などの石製品、刀小柄・かんざしなどの金属製品、下駄・櫛などの木製品などが出土している。木簡は、二点出土しており、(1)は三の丸の内部を区画する溝から、(2)は、二の丸付近の近世の溝から出土したものである。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ☐ 牛定 (194)×(30)×(4) 081

- (2) ☐ [藤カ] マサ ☐ (204)×(27)×(15) 059

(1)は報告書では、「☐午書」と読んだが、その後の検討で釈読を

